

# 温度管理と育苗箱施薬でイネ細菌病を徹底防除！

近年、もみ枯細菌病による苗腐敗症が県内で多発しています。多発した育苗施設では管理温度が高い傾向にあります。ここでは、もみ枯細菌病の効果的な防除法を紹介します。

## 1 温度管理で防除する

催芽・出芽温度や育苗温度を低温にすることで、発病が著しく抑制されます(図1、2 汚染種子率3%で試験)。催芽・出芽は30℃以下、育苗は25℃以下で行うように心がけましょう。

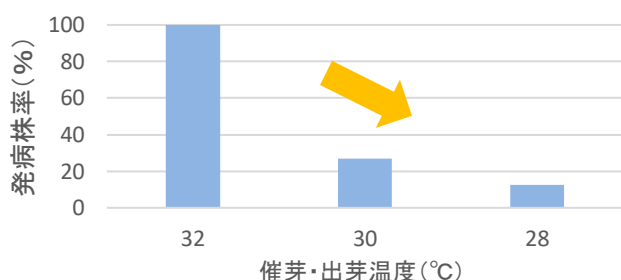


図1 催芽・出芽温度と発病の関係

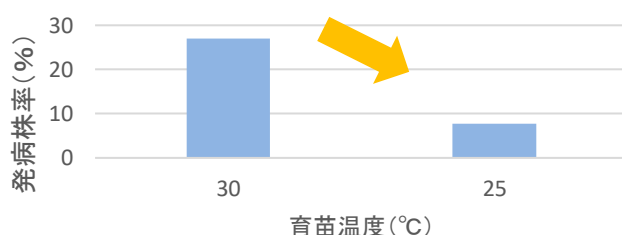


図2 育苗温度と発病の関係

## 2 効果の高い薬剤を使用する

もみ枯細菌病による苗腐敗症に登録のある薬剤のうち、は種時に育苗箱へ散布する薬剤に、高い防除効果が認められます(図3)。覆土前に種籾の上から均一に散布してください。特別栽培の場合でも、カスミン粒剤は使用回数にカウントしない農薬として利用できます(認証区分①以外)。

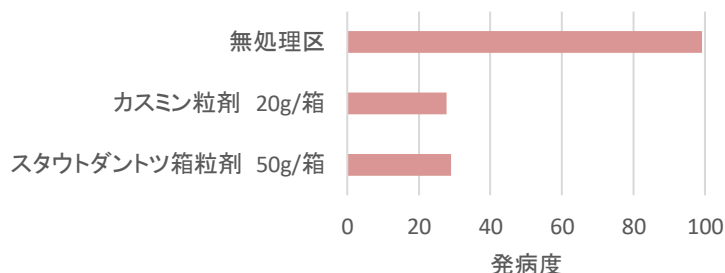


図3 もみ枯細菌病防除薬剤の効果

## 3 まとめ

もみ枯細菌病は育苗期間のいずれかの段階で高温になると、多発生する恐れがあります。育苗中はそれぞれの段階に適した温度での管理を心がけ、薬剤を組み合わせで防除しましょう。

